

出会い・感動・感謝



教育随想

まごころグループ
取締役会長
小林 和夫 氏

私には三人の子供がいます。二十六歳のときに結婚し、その年に店を開店しました。「れすとらん仔馬岡崎店」(後の「ぼにーべる」)です。その年に長男が生まれました。祖父・父が養子、そして私も生後八か月で小林家の養子となっていたので、およそ百年ぶりの小林家男子の誕生でした。私たち夫婦は一意専心で働いていたので、子供同士三人で協力し合い、助け合いの日々を送っていました。子供が横道にそれてはと思い、とりあえずスポーツをやらせようと、長男には小学三年生のときに「岡崎子どもバスケットボール教室」に入れさせていただきました。指導していただいた先生に、スポーツを通じ、礼儀・感謝の気持ち・負けない心・心遣い・思いやりを教わりました。そして、全国バスケットボール大会で三年連続日本一の最後の年の選手として活躍することができ、親まで感動をいただきました。長女は柔道を始めて、桜丘高校に進み、あのオリンピックの金メダリストの谷本さんと一緒に同じ寮で過ごしました。三年間の寮生活で様々な経験をし、親に対する感謝の気持ち、最後まであきらめない心など、たくさんのお話を学ばせていただきました。

ました。そして、二男はというと、小さい頃から劣等感を抱いており、小学二年生のときには、「ぼく小学校中退したいんだけど」と言ったこともありました。中学一・二年の頃には、けんかばかりで女房が週三日ぐらい菓子折りを持って謝りに行ったこともありました。しかし、人との出会いが二男の先生の転機でした。中学三年のときの先生方が相撲と出合わせてくださり、推薦で愛工大名電高校に進学することができました。本人は、高校の先生方にも、ただただ感謝だと言っています。おかげで、中学で終わるかと思っていた男が同志社大学を卒業することができました。現在、長男は、まごころグループの社長に、二男は起業しハウスメーカーの社長に、今年には身障者の施設を設立すると言っております。若い先生方に申し上げたい。今、先生が教育という現場に立たれているのも、御両親をはじめとした多くの方々のお陰だと思えます。教育は将来の日本を背負ってくれる子を育てるすばらしい仕事です。しかし、理想と現実はかなり違うと思いま



す。苦しいこと、つらいこと、思うようにならないことの方が多くありません。でも、私の子供たちのように、多くの先生に助けられ、今がある感謝をしている者がいます。そのときには分かつてもらえないかもしれないけれど、必ずや感謝され、理解してもらえ、日が来ると思えます。それを信じて今日も教壇に立っていただきたいと思います。

— 感謝 —
(こばやし かずお)



平成 28 年 1 月 1 日

1 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
まごころグループ 取締役会長 小林 和夫氏	
この人に聞く……………	2
額田林業クラブ会長 山本 恵一氏	
羅 針 盤 ……………	2
家庭科指導員 後藤 尚美	
ふれあい……………	3
竜海中 山内 美保	
特 集……………	4
歴史を刻む学校 ～岡崎市制施行 100 周年に寄せて～	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
環境緑化 花いっぱい活動 (昭和 39 年)	
この本を……………	8



山と共に生きる

額田林業クラブ会長
山本 恵一 氏

「愛着をもって育てた六十年生から九十年生の木が、一本千円にしかありません。今となつては山のある人の方が生活に難儀しています。」

固く結んでいた山本氏の口元が開く。農業技術員として幸田町役場に四年勤め、二十五歳で農林業を営む実家に戻った。

「祖父や父が守り続けた山を守ることは、長男である私にとつては、ごく自然なことでした。当時は電気やガスがなくて、みんな炭や薪を使っていたので需要がありました。木材にもいい値が付きました。『拡大造林』というのが国の方針で、植林しておけば何とかなると、みんなそういう考えでした。」

戦後の復興で、国内の木材需要は急速に伸びた。しかし、それは長く

は続かなかつた。

「昭和三十九年に安い外材が入るようになり、国内産の需要が減りました。電柱や建設現場の足場も、間伐材からコンクリートや金属に変わりました。間伐材は採算が合わなくなつたのです。林業で生活できない人は町に勤めるようになりました。」

四十六歳で額田町議会議員となつた後も、多忙な合間を縫つて林業を続け、現状への危機感を強めた。

「町に出た人は自分の山がどこにあるかも分からなくなり、放置林が増えました。自分の山なら枝打ちし、間伐できますが、他人の山では何もできません。森林の境界を確認し、間伐を推進することが緊急の課題だと感じるようになりました。」

平成十四年、額田林業クラブの会長に就任すると、より広い視野で林業の重要性を意識するようになった。

「今、全国で大きな災害が起きています。みんなが人工林を植えただけで手入れをしないから、災害が起きるようになってしまいました。すぐに後継者を、というわけにはいきませんが、まずは町の人たちに森林や林業の大切さを理解してもらいたいと思つています。」

この思いは、小中学生を対象とした間伐体験や男川・矢作川流域圏住民への間伐普及活動となり、全国へと発信されていった。

新たな森林保護活動を思案する中、全国で「木の駅プロジェクト」を推進する丹羽健司氏と出会う。

「『木の駅プロジェクト』とは、間伐材を地域通貨『森の健康券』と交換する仕組みです。業者がチップの材料として買い取ってくれるので、捨て切りになつていた木材の有効活用になります。また、地域通貨を地元の商店で活用してもらつたことで、商店街の人も助かるわけです。いいアイデアをもらいました。」

やがて、丹羽氏と交流のあつた唐澤晋平氏も仲間に加わる。これにより、プロジェクトは大きく前進した。

「昨年五月、満を持して『額田木の駅プロジェクト』を始めました。唐澤くんという若い人が外から来たことで、他の人も山に関心をもつようになり、地域が変わつてきました。若い人たちがこれからもやろうとすることに大きな意義があります。」

山本氏の表情がふと和らいだ。「これからどういふ風になつていくのか、先の見通しがつかないです。」そう語りつつも、若い世代に希望を託し、山本氏は今日も山と向き合う。



氏名 やまもと けいいち
生年月日 昭和十三年二月一日
住所 岡崎市木下町



生活に活きる体験を

家庭科指導員
後藤 尚美

子供の食生活は豊かさを増した。外食や手軽な市販品を食べる機会が増え、それに慣れた現代の子は濃い味を好む傾向にある。

A 小学校で、健康な食生活の実現をねらいとした授業を見た。この学級も、九割以上の家庭で、塩分濃度が標準より濃い、一・一〜一・四パーセントの味噌汁を飲んでた。そこでB 教諭は、「健康的でおいしい味噌汁」を軸に授業に取り組んだ。

本時では、健康に良い〇・七パーセントの塩分濃度で、湯に味噌だけを溶いたアの味噌汁と、だし汁や具材を入れ、汁だけを取り出したイの味噌汁を飲み比べる実験を行った。これまでの学習で、子供の味覚は具材が入っていない味噌汁の塩分であれば、正確に言い当てる程に高まつていた。今回の実験も、子供は見た目や香りを気にしながら慎重に味わった。試



磨き続けた輝き

竜海中 山内 美保

二年前の四月、初めての中学校勤務で中学一年生の担任となった。入学式当日、学級開きの最初の挨拶で、号令をかける役を求めたところ、A男が元気に手を挙げた。まだお互いのことがほとんど分からない中、前期の学級代表にも立候補した。しかし、思いは実らなかった。

何事にも積極的に挑戦しようとするA男であった。反面、不満があると後ろ向きな思いを口にしたり、学級の友達に対して、心無い言葉を発したりすることもあった。後期の学級代表にも立候補したが、落選した。落ち込むA男の姿を見て、リーダーとしてさらに成長してほしいと願った。「私が見ていないときこそ頑張れ。それが信頼につながる。学級代表になりたいのなら、これからの生活が大事だ」と声をかけると、幾分表情が和らぎ、首を縦に振った。

A男の成長のきっかけとなったのは、合唱の指揮者に選ばれたことである。合唱の良かったところを素直

に伝え、学級のために懸命に力を尽くした。心無い言葉や、後ろ向きな発言は減り、学級のために努力する姿が見られた。コンクールでは優秀賞を取ることができ、A男の努力も報われた。翌年の年賀状には「今年こそ、学代に」と大きな文字で書かれていた。合唱コンクールで得た自信が表れていた。

縁あって二年生もA男の担任となった。この年の前期、ついにA男は学級代表となった。思いは遂げたが、選ばれることが目的ではない。さらなる成長を願い、落選したときとは違い、厳しく声をかけた。

「ここからが始まり。落選した子の思いもあるから、いい加減なことはできないよ。思うようにやってみよう。間違っていたら教えるから。一緒に今年も良いクラスをつくらう。」うれしそうにしていたA男の顔が

引き締まった。「はい」と、力強い返事が返ってきた。その眼からは固い決意が感じられた。

この日からA男の授業中の姿も変わった。挙手が増え、前向きな発言が多くなった。そして、学級に明るい雰囲気をもたらした。

この年の合唱コンクールもA男は指揮者となった。一年前とは違い、歌を聴いて感じたことや合唱への思いをより明確に伝えることができるようになった。また、指揮者としての向上心や悩みを生活の記録に書くようになった。生活の記録でのやり取りは、一年生の頃から続いている。悩みは、歌い方の工夫、練習方法

心構えなど多岐に渡った。ここでもその一つ一つに、担任としての思いを重ねて朱書きを入れた。やがて、A男と共に学級も壁を乗り越え、目指す合唱に近づいた。その結果、最優秀賞を取ることができた。

二年間で、A男はリーダーとしてふさわしい姿に成長しつつあった。最後の面談で、「来年は学級だけではなく学校を支えてほしい」と伝えた。するとA男は、「後期に生徒会に立候補します」と静かに決意を述べた。

三年生でもA男は学級代表となり、さらに風格が増した。後期生徒会役員選挙が公示された日、廊下ですれ違ったA男に声をかけた。するとA男は、「立候補届を一番取りにいきました」と笑顔で言った。その勢いの通り、立会演説会では、堂々と自分の思いを述べるA男の姿があった。私には二年分の輝きに見えた。



飲後は皆、「イの味噌汁がおいしい」と口にした。B教諭がイの味噌汁には何が入っているのかを問うと、「煮干し」「玉ねぎ」など、見えない食材を次々に答えることができた。しかし、「イの味噌汁の塩分は何パーセントか」という問いに対しては、正確に答えることができなかった。食材

の味が子供の判断を迷わせたのである。イの味噌汁も同じ〇・七パーセントの塩分濃度であることを聞いた子供は、驚きを隠せない様子であった。薄味でおいしくないかと思っていた塩分でも、だし汁や食材を組み合わせることで味に深みが増し、おいしくなることを、子供たちは体験を通して学ぶことができた。このような体験が、より良い生活を目指そうとする意識へとつながる。きっと子供たちは、家で味噌汁に自分の好きな食材を入れ、味がどう変わるかを試したくなつたに違いない。

家庭科学習の出発点は子供の生活であり、終着点もまた、子供の生活である。体験的な学習では、体験した内容がその後の生活にどう生かされるかを見通し、子供が生活を見直す契機としたい。そのために何が必要かをB教諭は考え、真摯に実践した。家庭科の指導では、子供が生涯にわたって使う力を育てていることを忘れてはいけない。

歴史を刻む学校

～岡崎市制施行 100周年に寄せて～



▶ 校内の自治問題について話し合う様子 (昭和六年 広幡小)

平成二十八年が幕を開けた。本年は、岡崎市制施行百周年という記念すべき年である。人口三十八万の中核市へと成長した岡崎市と共に、市内の小中学校も絶え間なく時を刻んでいる。市制施行百周年に寄せて、市内小中学校の歩みにスポットを当てたい。

明治初期は新たな教育の指針に則った学校の黎明期である。現在の岡崎市の多くの小学校が開校した。

明治四十三年の通知表には、成績、出席等の記録に加え、長期休業中の過ごし方や家庭教育への思いが綴られている。

また、昭和二十年の学校日誌からは、空襲被害を受けた子供を見舞う教師の姿や、校舎が全焼した翌日の職員会議で対応を思案する職員の様子が読み取れる。

歴史を紐解くと、様々な変遷が見えてくる。同時に、その時代を必死に生き抜いてきた子供の姿や支えた教師・親の熱意が伝わってくる。時代が移ろい、建物や生活様式は変わっても、教育の本質は変わつてはならない。愛情と熱意をもつて子供たちに向き合い、教育に携わる喜びを改めて感じ取りたい。

市内小中学校 開校年

明治

145年前

- 4 梅園小 細川小
- 5 根石小 藤川小
- 5 本宿小 生平小 奥殿小 下山小
- 7 男川小 岡崎小 三島小
- 6 連尺小 福岡小 秦梨小 常盤小 岩津小 大樹寺小 矢作北小 六ツ美中部小 六ツ美北部小 宮崎小 形埜小
- 7 六名小 広幡小 恵田小 豊富小 夏山小
- 13 山中小
- 25 矢作中
- 34 常盤東小
- 36 竜谷小

学校令
教育令
学制

岡崎町(町制施行)

男川村の一部を合併



▶ 学芸会の学級写真 (昭和七年 矢作北小)

▶ 長期休業中の生活心得や、保護者への要望が記載された通知表 (明治四十三年 奥殿小)

<p>夏季休暇心得</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 ハヤシイネ、早クオキヤリニ、スベシ、 一 マイアキ、涼シキ中ニ、學科ノ、カラヒチカナスベシ、 一 シトニダラ、アソビニハ、必ズマカシテ用フベシ、 一 アカラマダモノヤ、クヒモノ、ノミ水等ニ、キチンタルベシ、 一 ミツオキハ、キレイナ水ニテナシ、長アヒチカナスベカラズ、 一 一ツビエノセマシ、ハツマキチ、ナスベシ、 <p>冬季休暇心得</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 早クオキ、アサノ中ニ、サラヒチ、ナスベシ、 一 一年中ニ、ナニシタカ、ワルキコト、ハナキカ、ウキコトハナニカ、 一 アタラシク、ムカハル年ハ、ナニカナスカ、 	<p>希 望</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 家庭ニ於テハ、父兄ノ行状強シクハ充分注意アラサシ 二 児童教育ニ於テハ、各級又ハ各年度等可成申出ダラサシ 三 児童生活ニ於テハ、毎日毎時ノ行動ニテハ、指導ノ習慣ヲ付タル様ニシラセシ 四 可成児童生活ニ於テハ、指導ニシラセシ 五 必要ナキ金貨(特ニ金貨)ヲ持テシラセシ 六 日用品ニハ、必ズ姓名ヲシテ決定メテ、ハナハナルシテ用ヒラセシ
<p>校長 松山房松 受持教員 瀧 與三郎</p> <p>保護者 殿</p>	

七月二十日 金堂 菅原植夫 晴天 度

七月五日 土曜日 宇佐美 雨天 度

一、事務室、修理完了

一、千代十時職、異常公り

一、戦災児童、見舞い

一、千代十時職、修理

一、御影町、下、出、修、理、中

一、千代十時職、異常公り

一、戦災児童、見舞い

一、千代十時職、修理



険しい山を登り、給食のパンを届ける保護者（宮崎小 ※統合前の千万町小）

空襲で校舎が全焼した日と、その翌日の学校日誌（昭和二十年 男川小）

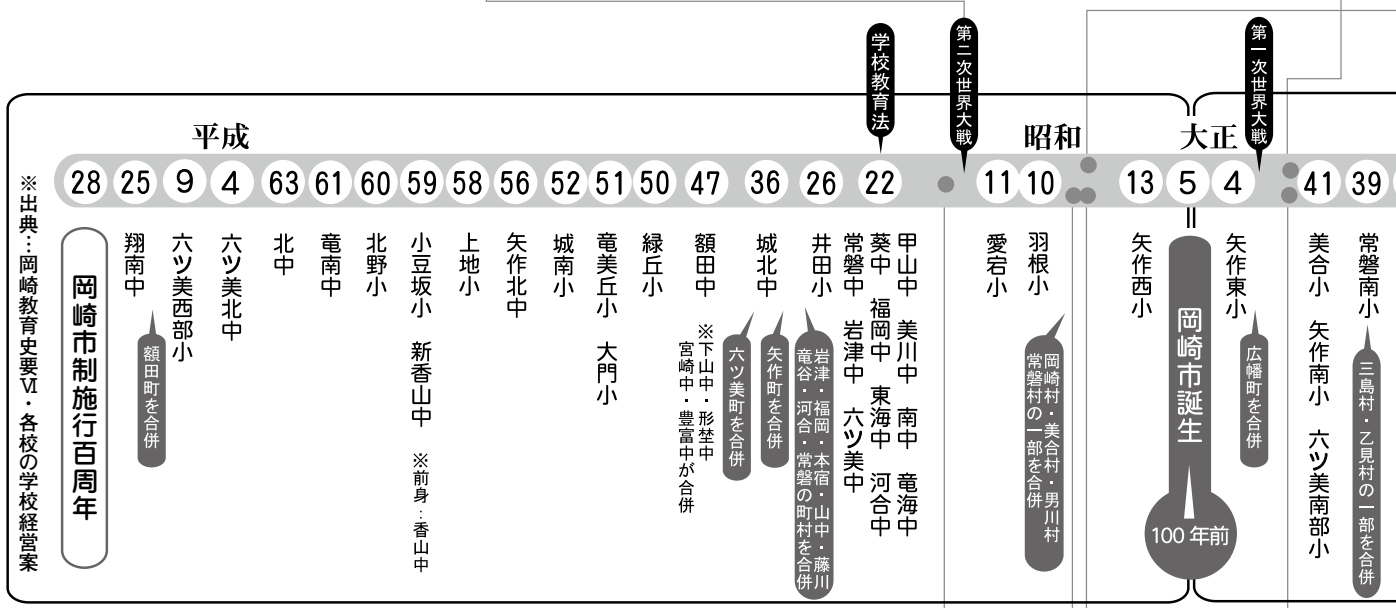
勤労奉仕でサツマイモ栽培（昭和十六年 梅園小）

尋常小学校 書き方手本 第二学年（明治四十三年 福岡小）









授業風景（昭和九年 下山小）



ベルリンオリンピック金メダリスト、兵頭秀子氏（旧姓 前畑）を招聘したプール完工式（昭和十六年 形埜小）





● 教育最新情報

◆平成二十八年全国学力・学習状況調査

○調査の対象

小学校六年生、中学校三年生

○調査事項

小学校は、国語・算数、中学校は国語・数学で、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を調査する。調査対象の児童生徒への質問紙調査、学校に対する質問紙調査も行われる。

○調査の方式

今年度に引き続き、小学校六年生と中学校三年生全児童生徒を対象とする悉皆調査が行われる。

本調査を行うことにより、

児童生徒の学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題に関する検証改善、児童生徒に対する教育指導の改善等をきめ細かく行う。

○調査実施日

平成28年4月19日(火)

◆平成二十八年岡崎市教員免許状更新講習

免許状更新講習

平成二十八年度も、岡崎市による独自の教員免許状更新講習を行う。夏期休業中に、無料で行う。

講習は、岡崎の教育に携わる講師により、岡崎の教育の現状をふまえた実践的な内容とする。

○受講対象者

一 平成二十八年度に岡崎市立学校・幼稚園等に勤務す

る本務職員と常勤講師・非常勤講師・教員補助者で、次の生年月日に該当する者

昭和37年4月2日～

昭和47年4月2日～

昭和57年4月2日～

昭和38年4月1日

昭和48年4月1日

昭和58年4月1日

昭和59年4月1日

昭和59年4月2日

昭和59年4月1日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

昭和59年3月31日

② 選択必修講習

平成28年7月31日(日)

③ 選択講習

平成28年8月3日(水)

4日(木)・5日(金)

会場は総合学習センター等

○受講対象者説明会

平成二十八年度の受講対象者に対し、説明会を次のよう

に行う。

・日時

平成28年2月26日(金)

受付 午後五時半～

・場所

総合学習センター

◆研究発表について

本年度、男川小学校、六ツ

美西部小学校、矢作中学校の

三校の市委嘱研究発表におい

て岡崎市の教育に対する大き

な研究成果を得ることがで

きた。

〈平成二十八年度研究発表校〉

来年度の研究発表予定校は、

次の七校である。そのうち、

市委嘱校が三校、自主発表校

が四校である。

市委嘱研究発表校(三校)

三島小学校 十月五日(水)

山中小学校 十月二十六日(水)

葵中学校 十一月九日(水)

○自主発表校(四校)

藤川小学校 十月十九日(水)

竜海中学校 十一月十六日(水)

小豆坂小学校 十一月十八日(金)

連尺小学校 二月八日(水)

〈附属学校〉

附属岡崎特別支援学校 十一月十一日(金)

附属岡崎小学校 十一月十五日(火)

優勝 六ツ美中学校

表彰

◆第34回愛知県中学生新人大会

男子バレーボール

優勝

六ツ美中学校

表彰

表彰

表彰

表彰

表彰

表彰

表彰

表彰

二位 矢作中学校
三位 矢作北中学校

◆愛知県駅伝力一二バブル

○男子中学

二位 矢作中学校
三位 竜海中学校

○女子中学

一位 矢作中学校

二位 六ツ美北中学校
三位 竜海中学校

○区間賞男子

一区 矢作中 宇都木秀太
二区 矢作中 瀬筒智哉
三区 六ツ美中 梅村秀忠

○区間賞女子

一区 六ツ美北中 浦野真由
二区 矢作中 細井衿菜
三区 矢作中 純浦美桜
四区 葵中 繁原ひなの

◆第54回全国学校体育研究大会

学校体育優良校

岡崎小学校

◆第50回全国野生生物保護実績

発表大会

林野庁長官長賞 生平小学校

◆第14回創造アイデアロボット

コンテスト東海・北陸大会

基礎部門(全国大会出場)

優勝 常磐中

半田琳子・下村航平

準優勝 常磐中

山本 茜・鈴木愛実

三位 常磐中

中根瑠南・山本 葵

○活用部門

五位 常磐中

黒瀬祥五・山田龍河

塚本 和・下村航平

◆第65回全国小・中学校作文

コンクール

中央最終審査

読売新聞社賞

甲山中 谷口琴音

○都道府県コンクール

入賞

根石小 山本真子

根石小 梅川 煌

六ツ美中部小 伊東利紗

甲山中 谷口琴音

・佳作

城南小

城南小

城南小

河合中

甲山中

◆CBCラジオ主催小学校作文

文コンクール

文部科学大臣賞

梅園小 石原南子

◆愛知県社会を明るくする連

動作文コンテスト

愛知県推進委員会委員長賞

城南小 北谷歩理

◆第14回全国子ども科学映像祭

新香山中 パソコン部

◆第29回全国短歌フォーラム

秀作賞 東海中 原田幸陸

入選 東海中 近藤雄斗

◆「海とさかな」自由研究

作品コンクール

文部科学大臣賞

三島小 草野琢磨

◆第62回日本学書展

特選

六ツ美北中 村松果歩

●教育研究所だより

教育活動にPDCAを

二期期には、自分の学級の参考にしようと、学習指導案や学芸会の台本等を、大勢の先生が探しにきていました。また、教育研究論文を執筆する時期には、若い先生を中心に、多くの先生が昨年度の優秀論文を熱心に読んでいました。

他にも、学級経営に生かそうと教育図書は何冊も借りに来る先生や教育アドバイザーの先生に日々の実践における悩みについて相談をする先生もいました。

岡崎の先生たちが教育研究所を活用し、少しでも目の前の子供たちのために努力をしようとする姿が多く見られた二期期でした。

一月に入りました。いよいよ三期期です。子供たちが本年度の自分の成長を振り返る大切な時期になります。また、それぞれの学校にとっても、

一人一人の先生たちにとっても、一年間を見直し、反省をし、新年度に向けた新たな計画を立てる時期でもあります。

「PLAN」「DO」「CHECK」「ACT」のPDCAサイクルを回すための大切な三期期です。

これからの三期期を実りある三か月にするとともに、新年度の一年間を見通した新たな計画を立てるために役立つ資料が、教育研究所には数多くあります。現在、平成二十七年の各学校の教育資料や新たな教育図書も収集し、整理をしています。

教育活動のPDCAに、教育研究所を活用ください。



▲優秀教育研究論文の展示 (11月)

・カ
ツ
ト
美川中 深津勝巳

環境緑化 花いっぱい活動 (昭和39年)

写真提供：三島小学校

昭和三十九年から始まった学校花壇コンクールでは、長年に渡り岡崎市内の多くの学校が受賞している。
写真は町中を花でいっぱいにしてしようという「花いっぱい運動」の一環として行われた「一人一鉢運動」の「定植」に取り組む子供たちの姿である。自分の植えた朝顔やマツバボタン、菊の成長を気にかけてながら、除草や肥料やりに精を出した結果、学校には色とりどりの花が咲き乱れた。同校では、その後も毎年フラワーブラボーコンクールで奨励賞を取り続けており、子供たちの花を愛でる心は受け継がれている。
めまぐるしく変化する教育課程の中で、学校の環境緑化活動は、変わることなく大切にされてきた。今日も、緑豊かな環境に包まれた岡崎の子供たちは、心豊かに育っている。



とわ
永久に変わらないものがある。岡崎
市は今年、市制施行百周年を迎える。
市内には百年以上の歴史を刻む学校も多く、良き伝統を残す。時代に即した教育は必要だが、根底にある子供への愛情や教育への情熱は、いつの時代も変わらない。これからは学校が、子供たちにとって居心地のよい場所になるように支えていきたい。

ど ホ と ツ

睦月



かるた大会 (福岡中)

類を紅潮させて駅伝の選手たちが走る。向かい風をもっともせず、自分の限界に挑み、チームのたすきをつなぐ。プレッシャーや挫折感との闘いに負けそうなとき、背中を押してくれたのは、共に練習した仲間の姿や言葉だったに違いない。目の前を駆け抜けていく選手の数だけ、ラムがある。心からの声援を送りたい。

つややかな梁と床が一目目をひく幼稚園舎は、林業クラブが切り出した木材を使って作られた。園児は寝転んだり、雑巾がけをしたりして、園舎に親しんでいるようだ。近年、間伐材が学校などの公共施設に使われ始めた。木の温もりや優しさは安らぎを与えてくれる。木材の良さを守る山本氏の活動を応援したい。



*本物の教養
幻冬舎新書

出口 治明
¥800

心に残った一文
人生をもっと楽しむ心があれば、人間的な幅が広がり、魅力がより醸成され、個人として熟成されます。

著者の教養の定義は「人生を面白くするツール」である。知識を得るだけでなく、「自分の頭で考えること」を加えることで、より豊かな教養が身に付くのである。著者が教養を培う源となった「本・人・旅」について振り返る記述や、身に付けた教養で解釈した時事問題は、具体的な経験と合理的な考え方に基いており、大変興味深い。
目の前の子供たちによりよく生きていく知恵を授けるためにも、じっくり考え納得することの大切さを再認識した。

*人を育てよ
朝日新書
*昆虫はもっとすごい
光文社新書
*大世界史
文春新書

丹羽宇一郎
¥760
丸山宗利・養老孟司・中瀬悠太
¥800
池上 彰・佐藤 優
¥830
北中 荻野 款司